

# 戦略 1 生物多様性保全への貢献



### 行動計画(飼育展示)①

希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します

#### ズーストック種の飼育繁殖

# 47種

/30種以上(R4計画)

繁殖に成功した47種の一部

東京都の策定した第2次ズーストック計画、および当協会の定める保全対象種のうち、上野8種、多摩21種、葛西8種、井の頭10種、合計47種(※)の繁殖に成功しました。

※令和4年1月1日～12月31日の繁殖種数

#### そのほかの取組

- ✓ 環境省保護増殖事業との連携事業として、オガサワラカワラヒワについて、現地施設での飼育環境整備や飼育繁殖に協力するとともに、園内で近縁亜種を飼育し調査研究を行いました。
- ✓ 野生生物保全センターの機能強化に向けた実施体制について関係機関と協議を行いました。

### 行動計画(飼育展示)②

飼育下における動物福祉の向上と維持を図ります

#### 動物福祉の基準に基づくふれあいプログラム



体験プログラム「モルモットとなかよし」(上野動物園)

3園(上野・多摩・井の頭)で実施してきたモルモットふれあいプログラムについて、感染症予防と動物福祉の両立を図る新たなプログラムを開始しました。また、国内動物園との情報交換や議論のための「ふれあいシンポジウム」を開催しました。

#### そのほかの取組

- ✓ エンリッチメント評価基準を策定するうえで事例の収集・蓄積を行いました。
- ✓ 東京動物園協会の動物福祉に対する考え方を対外的に示すため、令和3年3月に動物福祉ポリシーを策定し、令和5年3月末に公開しました。加えて、動物福祉体制の強化を図るため、令和5年3月に東京動物園協会内に「動物福祉委員会」を設置しました。

### 行動計画(飼育展示)③

飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します

#### 国内外の会議・学会における発表・報告

# 42件

/30件以上(R4計画)

印刷媒体やデジタル媒体における  
調査研究成果の公表

飼育繁殖事業や調査研究等を通じて得られた科学的知見について、国内外の会議・学会や、印刷媒体・デジタル媒体において積極的に発信しました。

#### 国内外の会議・学会における発表・報告事例

- ライチョウにおける人工繁殖補助技術の最前線(第20回ライチョウ会議)
- チンパンジーの栄養を改善する:科学的根拠に基づく栄養管理の適用(第23回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会)

#### 印刷媒体やデジタル媒体における調査研究成果の公表事例

- 多摩動物公園におけるアカガシラカラスバトの自然繁殖への取り組み(どうぶつと動物園 2022年夏号(2022.7))

# 18件

/15件以上(R4計画)



行動計画(教育普及)①

生物の現状や保全活動、地球環境問題について適切な手法を選択し、より積極的に広く伝えます

野生生物の現状を伝える教育活動



SDGsをテーマにしたデジタルクイズラリー

SDGs(持続可能な開発目標)と、その達成に向けた各園の取組について、スマートフォンを利用して楽しく学んでいたことを目的としたデジタルクイズラリー「いきものの未来のためにできること」を4か月間開催し、4園で合計約9,000名の参加者に対してSDGsとその達成に向けた各園の取組を紹介しました。

東京に生息する野生動物に関する情報を積極的に発信



上野動物園(両生爬虫類館)の生体展示と解説パネル

東京に生息する野生生物として、4園で連携し保全に取り組んでいるアカハライモリ、小笠原産マイマイ類、東京産両生類について、展示場でのガイドや解説パネル、パンフレット等により積極的に普及啓発に取り組みました。

そのほかの取組

- ✓ 野生生物保全に関する講演会・シンポジウム等の開催 21件
- ✓ ボランティアとの連携と協働事業の強化として、令和4年度後半にTZV(東京動物園ボランティアーズ)、T.S.V.(東京シーライフボランティアーズ)の活動を一部再開しました。

行動計画(教育普及)②

教育機関と連携し、実物を介した体験的な学びを通して、環境教育・保全教育をサポートします

教育普及活動におけるデジタル技術の活用



UENO ZOO STUDIO を活用したオンライン授業・情報発信

多彩なオンライン授業を行えるよう、機材等を整えた「UENO ZOO STUDIO」を開設し、区部～小笠原村等の遠隔にある学校も含めた43校約3,500名の子どもたちにオンライン授業を実施しました。

また、事前学習用のオンラインプログラムを取り入れた観察会など、より学びを深めるためにデジタル技術を活用した多様な教育普及活動を展開しました。

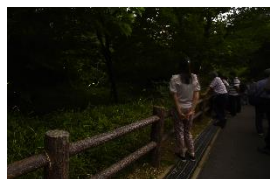
そのほかの取組

- ✓ 教員向け研修のアンケート分析と改善、学校団体向けプログラムの整理と分析を行いました。
- ✓ 保全の担い手を育成するため、現行の飼育実習と博物館実習の実施と検証・分析を行いました。

【R4受け入れ数】

飼育実習: 上野41名(オンライン)、葛西9名、井の頭4名

博物館実習: 上野22名(オンライン)、多摩9名、葛西12名、井の頭5名



オンライン事前学習

園内での観察会

事前学習用のオンラインプログラムを取り入れたホテル観察会(多摩動物公園)

# 戦略 2 気候危機への対応



## 行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

### 緑のカーテンや遮光フィルムの設置



レストラン シーウインド 緑のカーテン  
(葛西臨海水族園)

緑のカーテンを、両生爬虫類館(上野動物園)、ウォッチングセンター(多摩動物公園)、レストラン シーウインド(葛西臨海水族園)の3箇所に設置しました。また、緑のカーテンや遮光フィルムについて、さらに設置が可能な箇所の調査を行いました。

### そのほかの取組

- ✓ 省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入について、日照時間に応じた照明の自動調整設備導入(上野)や、キーパー通路の一部の照明器具のLED化(葛西)、太陽光発電式外灯の設置調査(井の頭)等を行いました。

## 行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

### 園内樹木等の良好な管理



ナラ枯れ予防殺菌剤の注入

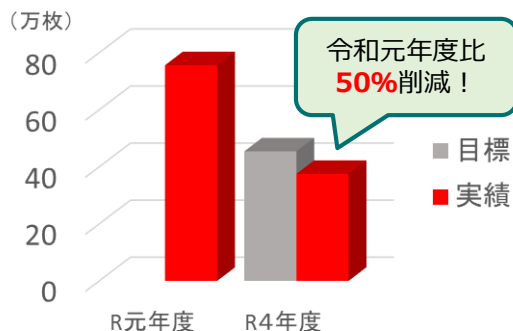
定期的な樹木点検や整枝剪定を行う等、園内樹木等の良好な管理に努めました。また、近年、各地で猛威をふるうナラ枯れ被害の拡大を防ぐため、多摩動物公園を中心に、被害木の伐採処理や予防措置としての薬液注入作業などを実施しました。

### そのほかの取組

- ✓ 伐採木の園内再資源化と緑化について、多摩動物公園では伐採材をチップ化し、インドサイ舎放飼場内への敷き均しを実施しました。また、上野動物園においても剪定枝のチップ化を検討し、破砕機を調達しました。

## 行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しを図ります

### ペーパーレス化



コピー用紙使用量の削減

事務全般の見直しとデジタル化等によりペーパーレス化を推進しました。コピー用紙の使用量について、令和元年度実績75.6万枚に対し、令和4年度は37.5万枚となり、目標(令和元年度比40%削減)を上回る50%の削減を達成しました。

### そのほかの取組

- ✓ 電力使用量削減に向けたさらなる取組として、昼休みの一斉消灯を推進しました(総務部)。
- ✓ カバ舎屋上の防水補修を実施(上野)するなど、予防保全的見地に立った施設補修・修繕を行いました。
- ✓ 各園の設備更新に合わせ、より環境負荷の低い機器への交換を実施しました。

# 戦略 3 循環型社会への寄与



## 行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します

### 緑のリサイクルの推進



丸太や石材を施設整備に再利用した事例(井の頭自然文化園)

井の頭自然文化園では、巣を作るためにリスが皮をはいだ丸太や、園内工事で不要となった石材などの廃材を施設整備に再利用し、景観や利用者サービスの向上を図るとともに、廃棄物の減量や経費の節減につなげました。また、各園において剪定枝の一部を飼料として活用したり、発生した幹や枝を組み合わせ動物用遊具や昆虫のすみかに活用したりしました。

### その他の取組

- ✓ 4園のギフトショップにおいてショップバッグを有料化し、マイバッグの利用を促進しました。
- ✓ 割り箸、カップ類等の使用量を削減するため、マイボトル、マイカトラリーを販売しました。
- ✓ ギフトショップ、レストラン・フードショップ用ユニフォームのリサイクルを行いました(上野)。

## 行動計画② 飲食・物販店や餌等の食品ロス低減等に取り組みます

### 飲食・物販店の食品ロス低減

調理や販売時にきめ細やかな運用が可能な新たな基準をつくるため、各園各店舗の運用改善について、今後の進め方を検討しました。

### その他の取組

- ✓ 余った餌を堆肥化し、餌用の野菜栽培に活用する手法の検討に向けて、堆肥化に向けた過去の取組の情報収集を行いました(葛西)。

## 行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、環境破壊を加速させない取組を推進します

### 環境に配慮した原材料の利用促進



MSC認証  
まぐろ丼(味噌汁付き)

レストラン シーウィンド メニュー例(葛西臨海水族園)

環境に配慮した原材料の利用を促進するため、葛西臨海水族園にて国際的な認証制度である「MSC/ASC 認証」を取得し、持続可能な漁業で獲られた水産物などサステナブル・シーフードを使ったメニューの販売を始めました。

### その他の取組

- ✓ プラスチック再生率100%のクリアファイル(上野・多摩・井の頭・葛西)、国際的な森林認証制度であるFSC認証を取得した木材/紙を使用した商品(上野・多摩・葛西)、竹の繊維を用いたバンブーファイバータンブラー(上野)、フェアトレード認証コットンを用いたタオル(上野)等を販売しました。
- ✓ バイオマスプラスチックや竹、紙素材など、環境負荷低減につながる素材の調査と検討を行いました。

# 戦略 4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化



## 行動計画① 地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

### 地球環境保全に関する意識啓発



「都立動物園・水族園の未来のかたちをかنگあえる」葛西臨海水族園長からのメッセージ動画の一場面

東京動物園協会の理事長・園長・各業務のリーダーがSDGsへの貢献を踏まえたメッセージを語る動画「都立動物園・水族園の未来のかたちをかながえる」を10点制作し、全職員への配信を通して職員の意識啓発を図りました。

### そのほかの取組

- ✓ 専門家による全職員向けオンライン講演会「はじめよう SDGs ～都立動物園・水族園が取り組むためのヒント～」を実施しました。
- ✓ 野生生物保全センターと教育普及センターが連携し、「都立動物園水族園における保全とは？」というタイトルでの職員アンケートや職員向け研修資料を作成しました。

### 地球環境保全の積極的な情報発信

## 地球のことは、私のこと。未来のことは、今のこと。



上野動物園

多摩動物公園

葛西臨海水族園

井の頭自然文化園

キービジュアル

SDGs達成に寄与する都立動物園・水族園の取組を内部・外部へ伝えるためのキャッチコピーを東京動物園協会内にて公募し、「地球のことは、私のこと。未来のことは、今のこと。」というコピーに決定しました。加えて、広報活動等に活用するためのキービジュアルを制作しました。

## 行動計画② 多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

### 中高生等による保全活動への支援

東京動物園協会野生生物保全基金  
令和4年度助成対象活動【中高生部門】

「東京動物園協会野生生物保全基金」において、若き研究者を応援するため、令和4年度から「中高生部門」を新設し、助成を開始しました。

### そのほかの取組

- ✓ 野生生物保全基金をPRするため、保全パートナーの共同研究成果を発表しました。
- ✓ サポーター資金寄付方法を拡充するため、クレジットカードによる寄付について、すでに導入済みの動物園友の会や野生生物保全基金を参考に、導入に向けた検討を行ないました。

助成対象活動名	部門	助成先
奈良・グリーンヒル生駒におけるツバメの子育て研究	調査研究	奈良女子大学 附属中等教育学校

(助成金額: 293,970円)